

今月で熊本地震から10年が経過します

2016年4月14日に熊本でマグニチュード 6.5 の地震が発生し、震度7を益城町で観測しました。その28時間後の4月16日には再びマグニチュード7. 3の地震が発生し、西原村と益城町で震度7を観測しました。当初、14日に発生したM6.5の地震が本震と想定されていた。しかし16日未明に上記M7.3の地震が発生したことを受けて気象庁は同日、後者(16日未明)の地震が本震で、前者(14日)の地震は前震であったと考えられるとする見解を発表しました。

この地震では最終的に死者は277人、負傷者はおよそ2,800人に上りました。DuMA/CSOが所属していた東海大学は熊本に農学部を有しており、阿蘇キャンパスはまさに震源地直上に位置していました。この地震で3名の東海大学学生の方が命を落とすという痛恨の出来事が生じてしまいました。

現在、旧東海大学阿蘇キャンパスは熊本地震の記憶や経験、得られた教訓を確実に後世に伝える回廊型のフィールドミュージアム「熊本地震 記憶の廻廊」の中核拠点施設として整備され、公開されています。

<https://kumamotojishin-museum.com/>



1階が押しつぶされたアパート

NHK で富士山噴火に関する特集番組が放映されます

NHK スペシャルで、富士山大噴火 迫る“灰色の悪夢”という特集が2回連続で放映されます。

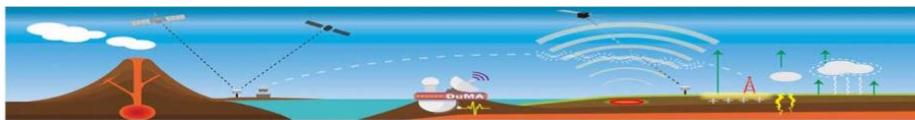
前編 NHK 総合 4月5日(日)夜 9:00 放送

(再放送は4月7日ないし8日の深夜)

後編 NHK 総合 4月12日(日)夜 9:00 放送

前編・後編ともに 4月19日(日)夜 9:49 まで NHK ONE で配信となります。

内容は、もし富士山が大噴火したら一。国の最新報告書と専門家への徹底取材で現実に起こりうる「最悪シナリオ」を映像化。VFX技術を駆使したドラマと科学的検証を交えたドキュメンタリーで巨大災害の実像に迫るといふものだそうです。

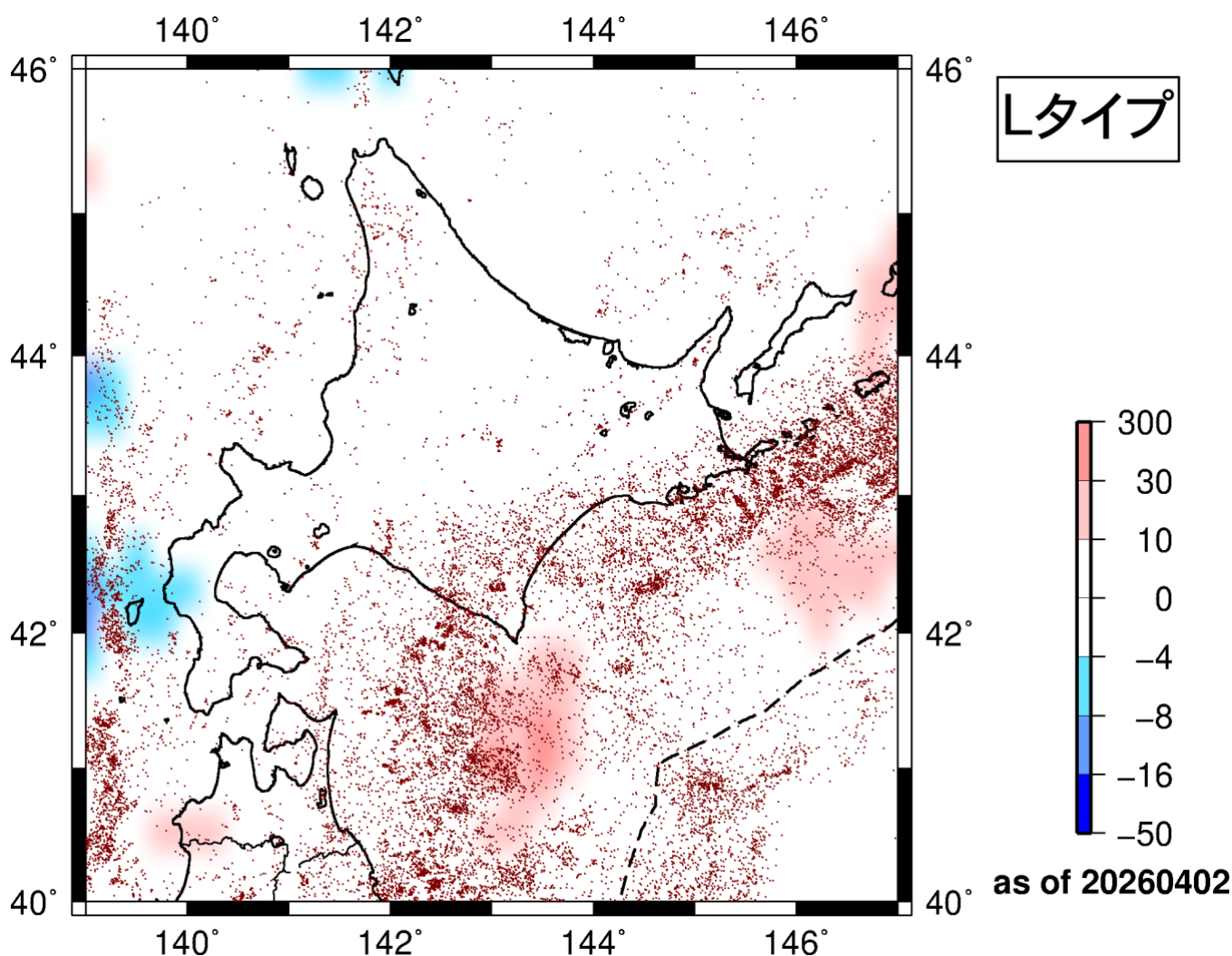


北海道および九州の地下天気図®

今週号では、2月16日のニュースレターに引き続き、北海道と九州および南西諸島を含む領域の4月2日時点の地下天気図をお示しします。いずれもLタイプとなっています。

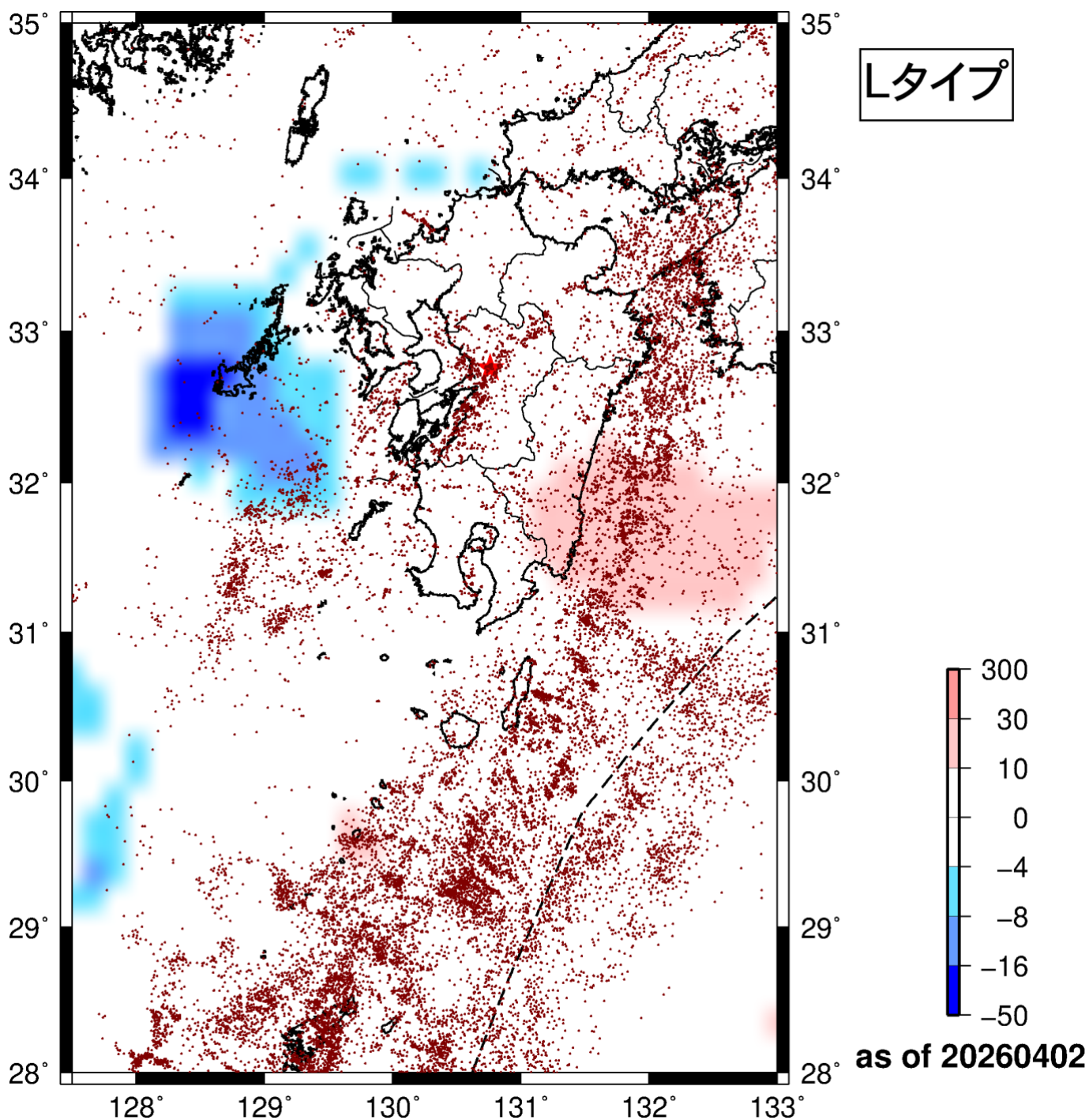
北海道の地下天気図では、前回の解析で青森沖に小さな静穏化領域が出現していましたが、出現していた青い静穏化領域が消えていましたが、3月26日に青森県沖でマグニチュード6.7の地震が発生し、現在静穏化は解消しています。

襟裳岬沖合や根室・釧路沖合の赤い地震活動活発化領域は継続しています。それ以外の変化としては、北海道西方の奥尻島付近で青い地震活動静穏化領域が出現しています。この静穏化は2月23日のニュースレターでお示した日本列島陸域の地下天気図でも確認されており、DuMAでは今後の推移に注目していきたいと考えています。



次ページに九州および南西諸島の地下天気図をお示しします。こちらは福岡県・佐賀県周辺での地震活動静穏化領域は前回と同じく解消傾向と考えられます。それに対し長崎県沖およびその周辺地域での地震活動静穏化は継続しています。ただ、当該地域は元々地震活動がそれほど活発な地域ではないため、静穏化の確度はそれほど高くないとも考えています。

日向灘を中心とする地域での地震活動活発化は依然として続いている事がわかりました。



3月23日のニュースレターで報告いたしましたが、3月15日から熊本県水俣市を中心に発生していた群発地震活動はほぼ終息して参りました。現時点では大きな地震につながる兆候は確認されておられません。